

職場の誰に・どこまで伝える？

2人に1人が“がん”になる時代

“がん”は長期的に上手に付き合っていく病気のひとつになっている（全がんの5年生存率が年々延長）

仕事ができる年齢で“がん”になる患者さんが増えている（全体のがん患者さんの1/3）

病気のこと、どこまで伝える必要があるんだろう？



これまで通りにはできないこと、配慮してほしいことがありますか？

「なぜ、伝える必要があるのか？」を考えてみましょう

必ずしも病名や病状の詳細まで伝える必要はありません。ただし、働き方や業務に何らかの配慮を求める場合は事情を理解してもらう必要があります。

わかってほしい人に伝えましょう

•どんな配慮が、いつごろまで必要なのか具体的に伝えましょう。

状況の変化に合わせて、継続的に伝えましょう

•治療内容が変わったときなど、状況の変化も伝えて継続的に相談しましょう

産業医、産業看護師などを巻き込みましょう

•病気や治療の理解者を見つけ、上手に間にってもらいましょう

“できること”もアピールしましょう

•“できないこと”だけでなく“できる工夫”も一緒に提案してみましょう

仕事について不安や悩みがあるとき、病院でも相談できることをご存知ですか？

どのように職場に相談するとよいか、治療スケジュールはどうか、どんな働き方ができそうかなど、一緒に考えていきます。

産保センターの両立支援促進員を交えてのご相談も可能です。お気軽にご相談ください。

ご相談・お問合せ先：

1-57 がん相談支援センター
代表TEL (086) 422-0210 (内線2960)

※ホームページからの相談予約も可能です

